

# 医療機関従事者の皆様へ 糖尿病連携手帳を活用していますか？

～ 患者さんが糖尿病と共に生きる豊かな毎日の実現のために ～

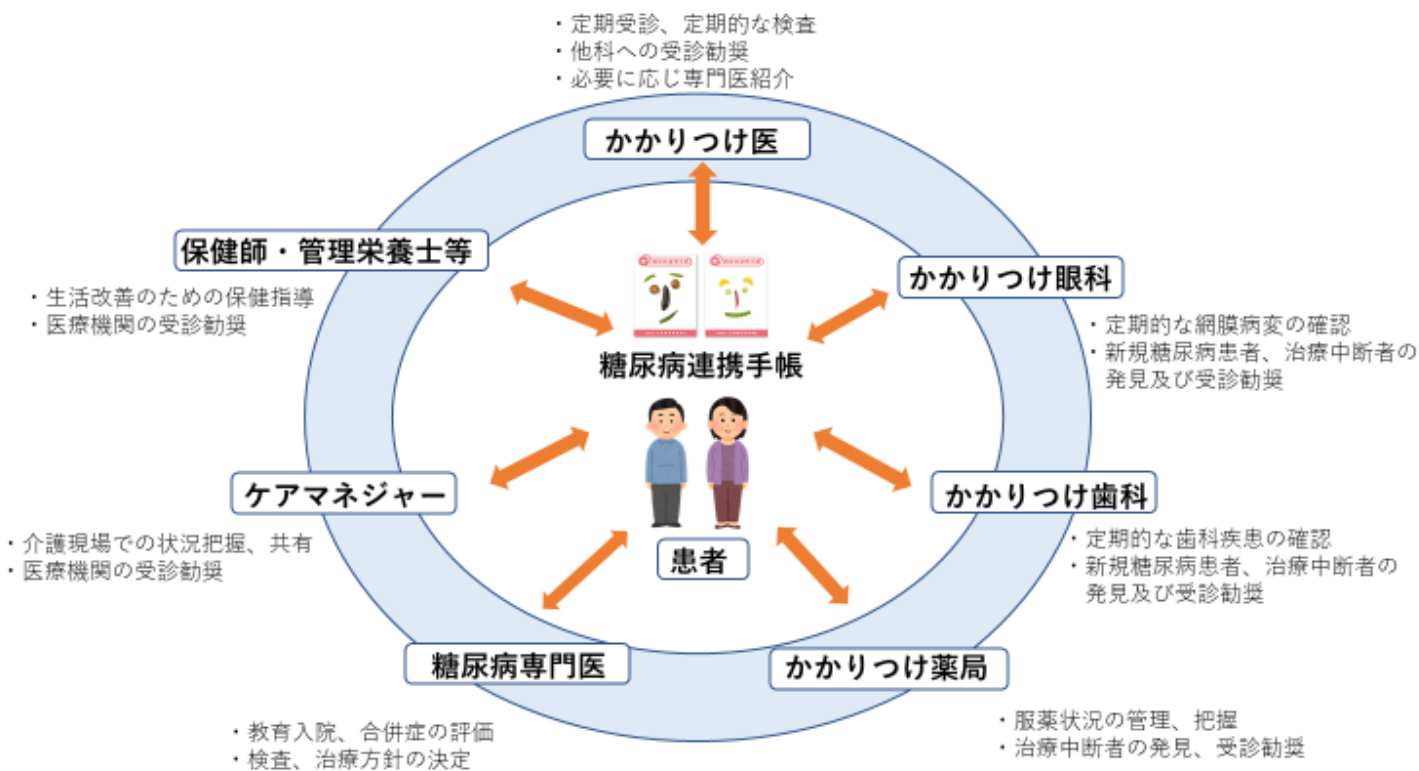
## 糖尿病連携手帳の活用の意義

ご存じのとおり糖尿病及びその合併症は、長期にわたる継続治療が必要であり、かかりつけ医だけでなく、糖尿病専門医、歯科医師や眼科医、看護師、薬剤師、地域関係者（保健師、管理栄養士、ケアマネジャー等）が、役割を發揮した地域連携が重要です。



「糖尿病連携手帳」は、患者さん自身の生活習慣の自己管理はもとより、治療方針や検査結果を共有した職種間の連携強化にもなる、糖尿病の重症化及び発症予防するための重要なツールとして、公益社団法人日本糖尿病協会が作成し、無料で配布しています。

## 糖尿病連携手帳を活用し、多職種連携で重症化予防、発症予防に取り組みましょう



(連携イメージ図)

## 交付から活用までの流れ

糖尿病と診断されたら・・・  
糖尿病予備群と言われたら・・・



診断した医療機関が手帳を交付  
もしくは  
市町村の健診結果説明時に手帳を交付



### 患者さんは・・・

- 病院受診時、健康診断時、介護サービス利用時等様々な場で提示
- 自分自身の健康状態を確認し、自己管理に活用

### 関係機関は・・・

- 検査結果、治療・指導内容、その他多機関と共有が必要だと考えられる内容を記載
- 他機関の記載内容を参考に、治療や支援を実施。必要時は、関係機関と連携して治療、支援を行う

